

# 小牧市へ要望書提出 会員商工業者の声を行政へ

11月16日、平成30年度の小牧市への要望書を、成瀬会頭から山下小牧市長と玉井市議会議長へ手渡しました。



▲山下市長へ要望書を手渡す成瀬会頭（左）



▲玉井議長（左から二人目）と稲垣副議長（左）に要望内容を説明する成瀬会頭と速水専務理事（右）

## 要望書の内容

小牧市におかれましては、日頃から市内産業振興、地域振興並びに当会議所運営につきまして格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

当所は3,400余の会員事業所を有しておりますが、中でも地域の経済と雇用を支える中小企業者や小規模事業者は、深刻な人手不足、燃料費や原材料費の上昇による負担増、根強い消費者の節約志向が依然として足かせとなっております。

当所としては、小規模事業者への経営発達支援のための事業を伴走型で推進しているところ

ではありますが、IT化推進、事業承継、働き方改革、人手不足での外国人材の活用など様々な課題を有しており、行政を始めとする関係団体のネットワークを駆使した一層の経営支援が必要と考えます。

つきましては、会員の声等を集約した「2019（平成31）年度施策並びに予算に関する要望」を下記のとおり取りまとめましたので、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

## 1.危機関連保証に関する助成金対応について

2008年のリーマンショック時、国は不況業種向けにセーフティネット保証5号の対象を順次全業種に拡大することで中小企業の資金繰りを支援しました。その発動には一定の調査期間（1年半）を要したため、信用収縮に迅速に対応する制度となっていませんでした。その不具合な点を解消する策として、国は、本年4月1日に、将来発生し得る同様の事態に備えたセーフティネット機能として、大規模な経済危機や災害等の発生時に、業種・地域を問わず予め期間を区切って100%保証を実施することができる危機関連保証制度を創設しました。

当市におきましては現在、小牧市経済環境適応融資助成金として、愛知県融資制度「経済環境適応融資」の内、「セーフティネット」、または、「東日本大震災復興緊急保証」に係る信用保証料に対して助成措置がされておりますが、この度の国による危機関連保証制度の創設に合わせ、同助成金利用対象者に「危機関連保証を受けた方」を追加いただくよう要望致します。

## 2.小牧市企業新展開支援プログラム改定事業に伴う取り組みについて

2014年5月に小牧市企業新展開支援プログラムが策定され、市内企業の経営安定化・技術力

の向上に対する支援や、既存の産業集積資源を生かした新事業展開、創業者への支援施策を推進するほか、『こまき新産業振興センター』の整備など本市産業振興の推進に取り組んでいただいております。

その中、第6次小牧市総合計画（2009年度～2018年度）の実施計画（2018年度～2020年度）において、小牧市企業新展開支援プログラム改定事業（新産業創出事業）として、改定後プログラムの2020年度実施に向けた各種協議に着手するとお聞きしています。

つきましては、中小企業における経営課題やニーズ、当市施策の活用状況と効果などを把握・検証するための実態調査の実施や同調査結果に基づく支援策立案に際し、当所はじめ関係支援機関との協議の場を計画いただくよう要望致します。

### 3. 中小企業の人材確保支援について

少子高齢化の中で、企業においては人材確保が大きな課題となっています。

小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で「持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出」の目標値があり、製造業・卸売業・小売業の従業者数において、2014年度の53,093人を基準値に、2019年度の目標値として54,359人（プラス1,266人）を掲げておられます。（小牧市調べ：2016年度末時点では52,120人、達成率は約95.9%）。

また、同戦略において基本的方向として掲げている「本市で働く就業者を増やすための取り組みを支援していくことで優れた人材を確保しやすくなるような環境づくり」に向けての支援策を要望致します。

#### (1) 人材確保に係る広報費の補助制度創設

人材確保に係る費用に関するデータを見ますと、大手人材広告企業マイナビ発表の「2018年卒マイナビ企業新卒内定状況調査」によると、新卒採用一人あたりの採用費平均は53.4万円という結果が出ています。また、採用費のうち広告費（就職情報誌や就職情報サイ

ト、新聞など、一般に公開される採用情報を掲載・出稿するための費用総額）が約44%を占めています。

また、2015年度版中小企業白書によると、中小企業が中核人材（※）を一人確保することにかかる費用としては「0～10万円以内」が48.8%、「10～50万円」が43.1%、「50万円超」が8.1%となっています。

こうした状況の中、近年、スマートフォンやタブレット等モバイル端末の普及から、求職者・求人企業の双方においてインターネット活用が主流となり、就職・転職情報サイトなど求人情報サイトへの登録・掲載が増加傾向にあると思われまます。求人情報サイトの料金体系の例を見ると、掲載内容により20万円程度から300万円程度の料金ランクがあり、効果を上げるには情報量を増やし掲載料も増える仕組みです。

つきましては、人手不足と言われる昨今、人材確保に苦慮している中小企業が効果的な求人活動を行うための支援策として、インターネットの求人情報サイト登録・掲載費用に対する補助金制度創設を要望致します。

※中核人材…事業上の様々な業務において中核を担う人材、または特殊な資格や専門性の高い就業経験を有する即戦力たる人材を言う。

#### (2) 外国人労働者増加に向けた生活支援の充実

2017年12月末現在、小牧市の人口に占める外国人住民の割合は、5.98%と県内第5位です（出典：法務省「在留外国人統計」）。また、当市は「外国人集住都市会議」にも参加され、「外国人相談窓口（日常生活全般）」の開設や市民病院に通訳の設置など、各種施策に取り組んでおられます。

そうした中、昨今の人手不足の環境下において、外国人労働者採用の増加に伴う外国人の定住者増加が見込まれることから、次の施策の一層の充実を要望致します。

##### ① 防災安全に関する情報提供

現在の4ヶ国語（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語）から定住者が増加しているベトナム語・フィリピン語などの追加対応



②火災時や救急・救助時の通報に対しての消防司令センターにおける多言語通訳

現在の5ヶ国語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語）から定住者が増加しているベトナム語・フィリピン語などの追加対応

③大人向けの日本語学習支援の多言語対応

④医療通訳（あいち医療通訳システム等）により安心して通院できる広報の拡充

## 4.安全で安心なまちづくりのための補助金制度の創設について

本年8月8日に、小牧警察署からの要請に基づき、同署と小牧市と当所の間で、小牧市の安全・安心なまちづくりの実現を目的としたドライブレコーダー搭載車PRと録画記録の警察への情報提供に関する協定書を締結しました。

小牧市内には、交通運輸関連事業者も多く、所有社用車の安全な使用・管理、事故防止に努めておりますが、業界におけるドライブレコーダー装着の義務化、顧客への装着の提案など様々な機会拡大が想定され、当所としましても今後さらにドライブレコーダー装着の普及拡大に取り組んでまいります。

つきましては、市内企業の交通安全・防犯意識の向上を図り、安全・安心な地域づくりに貢献できるよう、事業者向けのドライブレコーダー装着率の向上を図るための「ドライブレコーダー設置補助金制度」の創設を要望致します。

## 5.観光振興（小牧山への観光誘客推進）について

小牧市観光振興基本計画では、小牧山を魅力ある地域資源（観光イメージ）として発信していますが、2019年春の小牧山城史跡情報館のオープンにより、小牧山を訪れる観光客等に歴史や魅力が伝わることを期待しています。小牧山城史跡情報館の他、小牧市歴史館等施設では、展示紹介は十分であります。観光来訪者からは、土産品販売や飲食エリアの充実が求められています。

つきましては、小牧山が観光目的地や休憩箇所として旅程に組み込まれるための誘客推進策として、史跡小牧山敷地内の環境整備と小牧山周辺エリアの有効活用を要望致します。

### (1) 史跡小牧山敷地内

史跡内に新たに常設店舗としての土産品販売店や飲食店を設置することは史跡保護の観点から、文化庁の許可を得ることは困難と聞いております。よって、小牧市歴史館内での営業や小牧山城史跡情報館周辺での仮設テントや移動販売車等での営業を可能としていただくよう要望致します。

### (2) 小牧山周辺エリア

現小牧山西側の観光バス待機場へのトイレ施設設置、並びに、小牧山東の旧小牧児童館跡地、山北橋手前の現市民病院職員駐車場および新図書館建設後の現図書館などを有効活用し、観光バス駐車場やトイレ施設の設置を要望致します。



▲小牧山城史跡情報館 内観イメージ

## 6.名古屋コーチン種鶏場の移転に伴う観光施策について

愛知県において、名古屋コーチンの種鶏場が安城市から小牧市への移転が正式に決定され、既に用地造成工事が進められ、種鶏場の建設工事が2020年度～2022年度に予定されています。

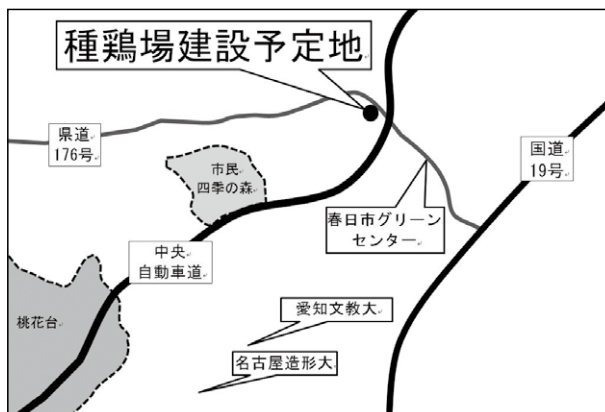
小牧市が「名古屋コーチン発祥の地」であることから、当所としては、この種鶏場の移転整備計画を契機に、種鶏場の観光資源化を目指して、2016年・2017年と継続して愛知県に「飼

育観察可能な鶏舎など」を要望してきましたが、そのような建設設計になっていないと聞いております。

つきましては、単なる種鶏場の移転に終わるのではなく、小牧市東部地区にとっても意義のある移転になるよう貴市から愛知県への働きかけを要望致します。

また、2016年度にも要望致しましたが、池之内地内の名古屋コーチン発祥の地の整備と、現地までの誘導表示、現地での見やすい案内表示、現地での駐車場など周辺整備についても重

ねて要望致します。



▲種鶏場建設予定地

報告

～ 農商工交流事業 ～  
第2回ふれあい芋煮会を開催

**開催日** 10月28日(日)  
**会場** JA尾張中央 本店 駐車場  
**参加者** 398名

当所地域活力向上委員会の企画運営による農商工交流事業『ふれあい芋煮会』をJA尾張中央、JAエビ芋研究会の協力を得て開催いたしました。北里地区で生産されている伝統野菜「エビ芋」と小牧発祥!「名古屋コーチン」を具材とした芋煮鍋が振舞われました。



▲芋煮鍋の配布

当日のアトラクションとして和太鼓演奏やフラダンス、歌、ブロック会賞を増設した大抽選会など企画致しました。



▲アトラクションMUSIC HOUR(あきこwithまみ)

またJA尾張中央による「エビ芋等の野菜販売」や「サボテン寄植教室」、(株)三喜工務店の「しいたけ販売」、小牧みやげ本舗(同)の「エビ芋コロッケ」、小牧原ブロック会による「豆腐田楽」、シオン倶楽部の「ビーズアクセサリー作成」、Atelier Senの「ハンドメイド商品販売」などの出店により、幅広い年齢層の方に楽しんでいただきました。



▲JA尾張中央による「エビ芋販売」

晴天に恵まれ、和気あいあいとした雰囲気の中、参加者相互の交流が図られました。



▲Atelier Senの「ハンドメイド商品販売」